



2021.11.17



LV.2



政治

出典 (朝日小学生新聞)

コップ

ごうい

き おんじょうしょう

ど おさ

## COP 26 で合意 「気温上昇 1.5 度に抑える」

## 【知識】

産業革命

18 世紀後半にイギリスで始まった、技術革新による産業・経済・社会の大変革のこと。急速な工業化によって、都市の大気汚染や貧困の問題なども発生した。

パリ協定

2015 年に、地球温暖化防止を目指し、温室効果ガスの放出減少についての、各国の取り組みを決めた国際ルールのこと。

温室効果ガス

地球の大気に含まれ、地表からの赤外線を吸収し、熱を保温する働きのある気体のこと。水蒸気やメタン、人間が化石燃料を燃やして出した二酸化炭素などがある。

## 【読解】

問 1. 2015 年に決められた温暖化対策の国際ルール「パリ協定」と今回の決定は、どのような違いがありますか？

「パリ協定」では、産業革命前からの気温の上昇を「できれば 1.5 度までにおさえる」という努力目標だったが、今回の決定では、「1.5 度におさえる努力を追求する」という強い表現となった。

問 2. 温室効果ガスの排出を今世紀半ばまでに「実質ゼロ」にするということも目標をクリアするために掲げられました。「実質ゼロ」とはどのような状態でしょうか？

二酸化炭素などの温室効果ガスを出す量から、森林など植物が吸収する量を差し引いてゼロになる状態。

問 3. 石炭火力発電に関しては、最終的に「なくす」ではなく「減らす」ということになりました。なぜ、「なくす」という言葉にならなかったのでしょうか？

石炭火力発電に大きくたよるインドや中国などが反対したため。

問 4. 温室効果ガス削減量の国際取引ルールでは、どのようなことが決定しましたか？

先進国が途上国の温暖化対策を支援した場合、途上国で減った排出量を先進国の削減分にプラスできること。

## 【思考】

(考え方)

「脱石炭」が世界の潮流になっていますが、日本では現在でも 3 割を石炭による発電に頼っています。欧州では、石炭よりも天然ガスを使用してきたということもあり、「脱石炭」に移行しやすいという現状もあります。一方で、新興国を中心に石炭火力発電の需要は拡大しています。石炭火力発電に世界の各国はどう向き合っているのか調べ、今後私たちはどのような未来を作っていくべきか考えてみましょう。